

第19回例会 2022.4.6 (水)

■出席率 会員69名中 45名出席 65.22%
修正52名出席 75.36% メイクアップ7名

◆会長挨拶 一條 浩孝 会長

私は、会長挨拶の中で心がけてきたことがあります。それは出来るだけ時事ネタを話さないということでした。ウクライナ戦争のように余ほどのことが無い限り取り上げないようにしてきました。

会長挨拶に与えられた時間はたったの3分間です。貴重なこの3分間では「出来るだけロータリーのお話をしよう」そう心がけてきました。また今年度の例会プログラムを作ってくれている赤間幹事は大変時間に厳しい方ですので、いつも「挨拶は短く、中身を長く」と指摘されて参りました。あと3か月、この指摘通り職務を全うさせていただきたいと考えております。

さて先週の土曜日、当クラブがホストとなりまして新会員オリエンテーションがこの会場で開催されました。お手伝いいただきました会員の皆様、ありがとうございました。そして参加された新会員の皆様もお疲れ様でした。皆さんの堂々とした発表は同じクラブとして大変誇らしく感じました。今後とも一緒に活動してまいりましょう。

実は今回の新会員オリエンテーションはコロナの感染防止から討議が中止となり、代わりに新会員お一人おひとりにロータリーに入会しての感想などを発表していただくことになりました。その題材の一つとして私からお願いしたことがあります。それは「ロータリーに入会されたのち、良いと思われたことも、そうでないことも率直にご意見を述べてください。」というものです。

現在のロータリークラブで最も大きな課題の一つに会員増強があります。これから入会してくる方と世代的にも感性の面でも一番近いのは新会員の皆さんです。これから入会される方に何を訴えればいいのか、新会員の皆さんが一番よく分かっているはずですが、そして



私たちに求められるのは、耳の痛いことでも新会員の皆さんが言える雰囲気を作ること、そしてそれを咀嚼し、実行していく勇気と受け入れる寛容さだと思います。

そうして社会の変化に適応して自らも変化していかなければ、企業であれ、団体であれこの世からの退場を余儀なくされてしまいます。

ロータリーの掲げる目的の実現に向って取り組む。あるいは奉仕の理念を学び続ける。など変えてはならないものがあります。これら素晴らしいロータリーの本質を追求し続け、次の世代に繋いでいくためには、本質以外での変化はむしろ歓迎すべきことだと思います。本質も追及せず、変化もせず、というのでは救いようがありません。次年度の渡辺会長には是非、私の年度を肯定するだけでなく、改善が必要であればどんどん変えていていただきたいと思っております。よろしく願いいたします。

最後になりますが、今日の会員スピーチでは、いよいよ私の師匠である吉田和義さんが登場します。タイトルは『会社の履歴書』となっております。そしてもうお一方が河野忠会員によります『私の履歴書』となっております。お二人で打ち合わせでもしたかのように履歴書がタイトルとなっております。楽しみにしておりますので、よろしく願いいたします。

◆米山奨学金授与

米山留学生のウ・シュウレイさんに一條浩孝会長から奨学金が授与されました。

ウさんからは、2月下旬から就職活動が本格化して、エントリーシートを作成したり、面接の準備をしたり、忙しく元気に過ごしていますとのことでした。

皆さんに感謝、ありがとうございます。



◆誕生祝い 親睦活動委員会
齋藤 弘之委員長

3月誕生祝い

弓田 智之会員

4月誕生祝い

佐久間 功会員、黒羽 好夫会員、
宍戸 隆司会員、赤間 浩一会員、
齋藤 弘之会員

6名の方に一條会長からお祝いが贈
られました。

おめでとうございます。



◆ロータリーの友読みどころ

ロータリー情報委員会 大橋 廣治 会員

読まれざるベストセラーと言われるロータリーの友も、長年読んでいると忘れられない記事に出会うこともあるとして、4年前の記事の、国際ロータリー第2570地区パストガバナー（埼玉県川越ロータリークラブ）今泉清詞さんの記事についての紹介がありました。戦後、埼玉県鶴ヶ島に入植し、農地を開墾し作物を作り、戦時中に亡くなった戦友たちのため、そして、ミャンマー人に命を救ってもらった恩返しとして、今泉記念ビルマ奨学会を設立しミャンマー人学生に奨学金を支援していることが紹介されました。

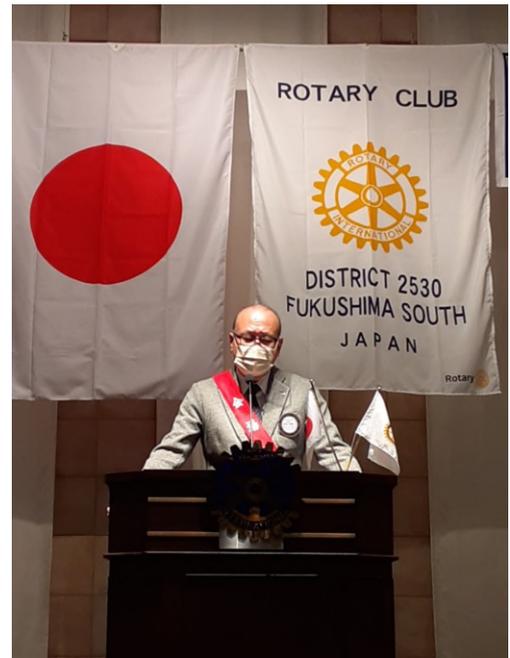
年に一回配布されている、「抜萃のつゞり」について紹介があり、書籍や雑誌、新聞から心に残る文章・記事を抜粋しまとめた書物で、株式会社クマヒラの創業者の熊平源蔵氏が社会への感謝、報恩のために創刊、現在は45万部を発刊し、全国の金融機関や公的機関などへ無料でお届けられているとのこと。今回配られた中には、アフガニスタンで亡くなった医師の中村哲さんの娘さんの記事が載っているとのこと。ぜひ、熟読してみてください。

◆会員スピーチ 吉田 和義 会員
「会社の履歴書」

本日はスピーチの機会を設けて頂き渡辺雅浩職業奉仕委員長に感謝申し上げます。

会員の皆様に当社の業務内容を知って頂くいい機会となれば幸いです。

さて当社は平成3年(1991年)創業、平成4年5月(1992年)資本金300万円で会社設立、名称は「有限会社グリーンフーズよしだ」としスタートしました。今年が会社設立30年の節目の年となりました。当社の業務内容は「惣菜キット」を食品スーパーへ販売や、お客様の要望に応じて製造受託(OEM)等の食品加工業を営んでおります。お手元の資料を見て頂ければどんな仕事か想像出来ると思います。販売エリアは東北6県、新潟県、長野県、関東一円(東京、神奈川、千葉、埼玉)、年中無休で稼働しております。生産量は毎日約1000~1200キット(食数換算10,000食~12,000食)です。現在に至るまでの紆余曲折の30年を振り返って見たいと思います。



1. 1991年~2000年(惣菜急成長期)→1999年4月福島南RC入会

福島生協との取引から順調に業務推移、食品商社を通して東北全域に取引拡大する。事務の合理化に取り組み請求業務(大手商社)をデータにて決済、また工場の作業指示書、仕入れ先発注書の一部をシステム化。関東一円の取引拡大(マイカル・カップ寿司子会社)により工場はフル稼働状態で身動きがとれず、慢性的な人で不足状態が続く。資金的には余裕が出てきたので2000年株式会社に組織変更し資本金3,000万円に増資し内部留保を厚くする。

2. 2001年~2010年(激動の10年が始まる)

マイカル・カップ子会社との取引は中部・関西にまで広がり工場は戦争状態。2001年11月マイカルが会社更生法を申請し取引が消滅、カップ寿司子会社との取引も同年12月自社製造切り替えの為取引停止。売上激減、営業強化の為に営業3名雇用するも、当然のことながらすぐには成果出ず、1名は退社。

2002年以降売上は低迷し最盛期の半分となる。手持ち資金も底をつき役員報酬の大幅減額と経費節減に努め運転資金確保する。銀行借入れはしないで踏ん張る。

2010年7月大橋ガバナーに地区資金委員長を拝命。

3. 2011年~現在(激動からかすかな希望の灯り)

ようやく業績回復の兆しが見えた頃「東日本大震災」。幸いにも工場に被災はなく物流正常化と共に売上回復する。多くの取引先様や従業員に助けられ、受けた厚意に必ず報いると決意する。幸いにも会計事務所の支援により「東電補償金」が出て資金的に一服

する事が出来た。「東電補償金」は従業員待遇改善のチャンスと捉え実行する。給与・時給の見直し、パート従業員の定期検診の実施（全額会社負担）子育て世代のパート確保の為勤務シフト改善（土曜・日曜休めるシフト）資格手当支給と資格取得の奨励。遅れていた福利厚生面を普通の会社並みにやっとなれたと感じる。しかしまだまだ会社の進むべき道筋が定まっていない。そんなとき 2015 年「おむすび権兵衛」さんとの取引が始まる。（お付き合いしているコンサルタントよりの紹介）これを契機に会社の進路を従業員に明確に示し再チャレンジする事とする。

「オリジナル商品開発と生産性の向上」にチャレンジする事を決意。

①オリジナル商品とロングライフ商品開発にチャレンジ

地元生産者との連携を図り福島の農産品を使用したメニュー開発

「おむすび権兵衛」とロングライフ商品の共同開発

②生産性向上に向けて工場内作業の簡素化にチャレンジ

作業委託先の多極化をはかる～同業者・障害者施設への食材加工委託
障害者施設より人材派遣の受け入れ

工場内作業は付加価値の高い商品製造に出来るだけ特化していきたい

③従業員の資質向上なしに会社の業績向上はない～資格取得の奨励

4. 30 年を振り返る

「困ったときは、お互い様」～一人で出来る事は限られている

最後に皆様に贈る言葉

「会社に何が一番大切なのか。贅沢を慎み、損益点を低くして内部留保を厚くし、売上が半分になっても慌てず、従業員を守って育成につとめなさい。すると必ず回復する。」

京セラ創業者「稲盛和夫」

◆会員スピーチ 河野 忠 会員

「私の履歴書」

何で予定に無い私が会員スピーチなのか？ 何故なら、断らないから、頼んだ人のこと考えると断れなくなってしまう。断らないといろいろなことをやらされる。

自分から手を上げて受けた役職は無いのですが、子供の頃から思い出すとクラスルーム長や児童会長など、大人になってからは建築士事務所協会の青年部長、商工会議所青年部の副会長、銀行の若手経営者の会長、そして社長までやらされています。やった人でないと分からない失敗や充実感を経験でき、また、人との繋がりが出来たり、少しずつ成長できているのかなと思います。



講師も、福島県立福島工業高校建築課の生徒への木造耐震診断の授業や、入庁 10 年未満の建築系県職員研修などでもさせていただきました。

そして、今年度は業界の支部長を受けました。ロータリーも次年度は地区出向を渡辺エレクトから、御銚子 10 本で請け負いました。今回の緊急のスピーチも職業奉仕委員長長の渡辺雅浩さんから、酒で返すからと言われ喜んで受けました。

酒で釣られると、ますます断る理由が薄れていきます。単純なものです。

考えてみると、幼い頃からそんな風に、周りの人から様々なことを言われたり、やらされたりしながら今日の私がいるような気がします。

私は、昭和 42 年（1967 年）伊達郡桑折町に兼業農家の次男坊として生まれました。小学校時代は、両親が病気がちだったり、交通事故にあったりと、交互に入院と付き添いを繰り返しており、すごく厳しい、南洋帰りの戦争未亡人の母方の祖母が、小学校の用務員として学校に住み込みで働いていたので、そこに預けられ、小学校に住んでいたことがあります。図書館の本を読み放題なのは良いことでしたが、夜、校舎内のトイレに行くことや、祖母の変わりに夜の校舎の巡回を兄弟でやらされ、とても怖かった記憶があります。

「悪がき」だった私は、しょっちゅう人に怪我をさせて両親と謝りに行ったり、先生に反抗して授業の途中で荷物も持たずに家に帰ってきたり、先生をおこらせて拳骨を何発ももらうことも多々ありました。本当に先生や祖母、両親にも迷惑ばかりかけていました。

そんな人間なのに、小学校一、二年と担任していただいた先生に小学校六年の時も担任していただきました。その先生が私を児童会長にさせ、「お前一人が良くなると必ず学校も良くなり、楽しくなるから」と教えてくれました。そこでいろいろなことを考え、実践しました。図書館の本の購入の選定を児童自らがしたり、花壇の整備を児童全員で落ち葉拾いをして堆肥作りから行ったり、その年バレーボールのスポーツ少年団も結成され 1 年目で県大会優勝したり。「自分が源泉」・・・自分が変わることが大切と言うことを実感した。

しかし、中学、高校もあまり、「悪がき」ぶりは直らず、高校は四期生として福島東高校に入学しましたが、担任の先生との毎日の対決がいやになり、学校にあまり行かなくなりました。担任が家に訪ねてきたとき、飼い猫を先生に投げつけたことがありました。先生は顔に傷を負って帰って行きました。

何回も学校止めろといわれても止めず、それでも何とか高校を卒業しました。

進路については、漠然として何か物を作る人になりたいという思いがありました。綺麗なものやかっこいいもの、それを見たとき使ったときに人は笑顔になったり、高揚感を得られる。そんなものを何か作りする人になりたいと思いました。そこで仙台にあるデザイン専門学校で、絵、彫塑、家具、インテリアデザイン、建築など広く浅く学びました。夜は、国分町にある高級クラブでバイトをし、そこでも様々な勉強が出来ました。

私たちの就職する時代の 80 年後半は、就職に困ることはありませんでした。私の専

門学校にもかなりの求人があり、福島の建築設計事務所の面接を受けることしました。建築の勉強もろくにしていないのに面接を受けると、それが、何と同じ桑折町在住の人が社長の今の会社「大野建築設計事務所」との出逢いでした。面接では、「おめー、酒呑めんのが」「ハイ」「いつからこれんだい。」でした。

その通り、遠出での現場監理から帰ると一献、定番の新年会、花見、暑気払い、芋煮、忘年会。物件途中で中帳場や打ち上げなど。折に触れてノミネーションを今でも行っております。同じ船に乗ったものとして、先輩の考えや、物の見方を知り、お互いを知る、建築技術など様々な勉強や意思統一の場となっています。

入社当時の設計事務所といえばブラックで、入社から5月の連休明けまで休み無し。お金になる仕事を覚えるまでは、先輩より早く帰れない、土日出勤、徹夜は当たり前。また、バブル後半と言うこともあり、建設会社から個人的に手伝いの依頼があったり、酒呑みの手伝いがあったりしました。おかげで、26歳で体を壊しました。それ以来、薬漬けの日々が現在まで続いています。

いまは、「やんちゃ」が直ったかと言うとそうでもありません。さすがに暴力を振るったり、いきなり食って掛かったりすることはなくなりました。

子供の頃は「いい加減な不良」でしたが、今は「真面目な不良」で行きたいなと思っています。当たり前のことを当たり前と考えず、批判的な目で見、抗い、押し付けられるのではなく、自分の頭で考え行動できる人間でありたいと思います。

ロータリークラブを初め、今まで在籍した商工会議所青年部（異業種との交流）、建築士事務所協会青年部（同じ境遇の同業者）、銀行の若手経営者の会などで、様々な人と交流させていただくと、立場が人を育てるということが良く分かります。ものの見方や自分で決断せざるを得ない立場にあることが「真面目な不良」にさせるのだと思います。

また、自分の信条として自分に対して「素直・正直・真面目」にありたいと思っています。それは、建築士や建築を生業としているものとしての気概よりも、人としてどう有るべきかと言うことだと思っています。小学校のときから親や先生からずっと言われてきたこと。それが単純だけれどもなかなか出来ないことだと思っています。

今や、我が家の家訓として、家内も娘も大事にしている言葉です。

もう一つ「できる人もできない人」「気づく人も気づかない人」もいる。だから自分がいると思うことです。何でこの人はできないんだろう。何でこんなことに気付かないんだろうと考えてイライラするよりも、自分でやっつけてしまおうと思うようにしました。だから自分の存在価値があると思うようにしたこと。そうすると、人のことをよく見、考えるようになり、より気付くようになったようになります。

朝5時に置き炊飯器のスイッチを入れ、朝食の準備をし、家族三人分の弁当を作り、シンクを洗い、ゴミを捨て、会社に誰よりも早く入社し、お湯を沸かし、冬場は雪かきをし、従業員を待つ。夜帰ったら米を研いで寝る。日曜日には家の掃除をし、ワイシャツにアイロンをかける。また、娘が小さかったときは、家内が夜勤や日曜出勤が当たり前だったので、客先に娘をつれて仕事の打ち合わせに行ったり、酒飲み連れ



て行ったりもしました。

そんなことをしているといろいろと気付くようになるものです。また、出来ないことが無いように感じたりします。

最後に、建築設計の生業について思うことを枚挙したいと思います。いくら建築バカといえども、時間やお金、精神的な余裕がなければよいものは創造できないということです。良いものを見たり触れたり、勉強しなければ、クライアントの生活スタイルを想像したり、生業を理解できないのです。そのために建築士の処遇改善が必要と思います。

物を作るということは、文明を持った人間の本質であり、宿命であり、それを使う事により生活がより良くなる喜びでもある。建築もしかり、しかし、建築はお金がかかる。形を作り出すより、どれだけ人間を理解し、暮らしを理解したかが大事、その建物に何を求め、どうして、建築したいと思ったか？暮らし、営みをデザインする。成果物「建築」もそうだが、作る過程もハッピーであることが大事。建設費、設計料も大事な要素だと思っています。「素直・正直・真面目」に今後も社会の一員としてまっとうに生きていこうと思います。

◆次回例会 第20回 2022. 4. 13 (水)

ガバナー補佐訪問、喜寿古希還暦お祝い、